

眼科臨床研修プログラム

研修の到達目標

(サブコース)

眼科診療とはいかなるものかを理解する。

眼科は高度に専門化された領域である。眼科疾患の特徴、眼科疾患を患う患者に対する注意点、眼科診療における医師の考え方を学ぶ。

(選択科コース)

眼科医でなくとも必要とされる眼科初期診療を学ぶ。臨床医として、日常遭遇する眼科疾患を、初期治療でよいもの、緊急性あるいは専門的な診断、治療が必要であるものを判断できる知識・技量を習得する。

眼科研修中に身につけるべき資質・能力 【技能・問題解決・解釈・態度】

(サブコース)

指導医の外来診療を見学し、以下のことを経験、修得する

- 1 問診、病歴聴取
- 2 視診（視力障害、視野障害患者の行動の特徴、眼位、眼球運動、対光反射）
- 3 基礎的な眼科検査を理解し、眼科診断の基本的な考え方を学ぶ

(選択科)

外来診療見学だけでなく、自ら眼科検査をおこない、診断および治療計画をたて指導医の指示を仰げるまでになる。入院診療にも参加する。

- 1 眼科に必要な解剖および視機能と基本的疾患を理解する。
- 2 細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧測定などの基本的眼科診察手技を習得する。
- 3 視力障害、視野障害などの概念を理解できて、緊急度・重症度を判断できる。さらに、必要な眼科検査を選択できる。
- 4 眼科救急疾患（急性緑内障、網膜動脈閉塞症、網膜剥離、外傷、異物など）の診断と初期治療を実践する。
- 5 眼と他科疾患（全身疾患、糖尿病、高血圧など）の関連を理解する。
- 6 基本的な治療手技（レーザー治療、白内障手術、網膜剥離手術、外眼部手術など）の方法、手順を理解する。
- 7 担当医として入院患者を受け持ち、術前評価、治療方針の決定、インフォームドコンセントの手順、術前術後管理を理解する。
- 8 眼科で用いる点眼、内服、注射薬の薬理作用、投与方法の基礎を理解、習得する。

研修方略

On the job training (ON-JT)

(サブコース)

外来研修

- 1 他科研修に影響の少ない曜日の午前中、指導医の外来診療を見学する。
- 2 問診・病歴聴取を行い、当該患者の指導医による診療の後、診断の道筋、治療の基礎をディスカッションする。
- 3 午後研修可能な場合は、眼科特殊検査、手術の見学、さらに手術助手を務める

(選択科)

指導医、視能訓練士による眼科検査法のレクチャーを受ける

細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧測定、矯正視力検査、視野検査

外来研修

- 1 眼科問診、必要な検査指示、検査結果の理解、診察（細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧測定など）、診断、治療方針、処方（点眼液の種類など）を実習する。
- 2 視力検査室において、視能訓練士の指導のもとに、眼科検査（視力測定、視野検査、眼球運動検査、斜視・弱視検査など）の意義を学習して、実践する。
- 3 眼科特殊検査（眼底写真、蛍光眼底造影検査、眼底三次元画像解析、前眼部スリット写真、角膜内皮測定、超音波検査など）を指導医のもとに実習する。

病棟研修

- 1 病棟回診に参加する。
- 2 入院患者の担当医となり、診察、治療方針、術前術後管理などを習得する。

手術研修

- 1 手術室において、手術の見学、助手を務める。簡単な手術手技を実践する。
- 2 レーザー治療室において、光凝固治療を見学、介助する。

眼科救急研修

- 1 指導医とともに、眼科救急患者の診療をおこなう。

Off the job training (Off-JT)

- 1 眼科関連の勉強会、研究会、学会などに参加する。

週間予定表

曜日	午前	午後
月	外来見学	手術見学、眼科検査・疾患レクチャー
火	外来見学、初診問診	手術見学、眼科検査・疾患レクチャー
水	外来見学、初診問診、初期検査	手術見学、眼科検査・疾患レクチャー
木	外来見学、初診問診、初期検査	眼科検査実習
金	外来見学、初診問診、初期検査	手術助手、眼科検査・疾患レクチャー

評価

研修中の評価（形成的評価とフィードバック）

- 1 週間予定表に示した On-JT のさまざまな経験の場で、SBO の達成状況について、指導医、上級医、指導者による形成的評価を行う（週間予定表の各方略の項に示された数字が、対応する SBO の番号となる）。

- 2 OMP、一日の振り返り、SEA が中心的なフィードバックの機会となるが、それ以外の場でも、適宜指導医、上級医、指導者による形成的評価が行われる（指導医による診療録のチェックなど）。
- 3 一日の振り返り、SEA は、研修医自身の振り返り（省察）の場としても用いる。

研修後の評価

研修医に対する形成的評価

- 1 研修終了後に PG-EPOC に研修医が入力した自己評価を元に、指導医、上級医が評価する。メディカルスタッフは現場評価表を用いて評価を記載する。
- 2 1.の評価表を集約して、責任指導医が PG-EPOC で研修医評価表 I、II、IIIに達成度評価を記載する。
- 3 経験すべき症候、疾病・病態については、研修中に作成された病歴要約について、指導医は考察も含めてその内容を確認し、十分な経験がなされたと判断した場合は、PG-EPOC で承認をする。内容が不十分な場合は修正を求める。
- 4 1-3 はプログラム責任者に提出され、定期的な形成的評価とフィードバックに役立てられる。
- 5 研修終了時に研修医は自己評価表に記入する。これもプログラム責任者に提出され、形成的評価とフィードバックに役立てられる。

指導医、研修プログラムに対する形成的評価

- 1 研修終了後に、研修医は PG-EPOC 上で、メディカルスタッフは指導医に対する評価表を用いて評価を記入する。

総括的評価

2 年間の研修修了時に臨床研修管理委員会が修了判定の総括的評価を行う。

眼科が学修の場として適している、経験すべき症候、経験すべき疾病・病態

経験すべき症候

めまい、視力障害

指導体制

研修責任者

佐藤昭一

指導医

佐藤昭一

上級医

平島みほ、片山博史

指導者

すべての指導者が、研修中のさまざまな場面で指導にあたる（指導者名簿参照）